

循環型マルシェ展開



雇用創出や 実習の場に

リサイクル業などを手掛る喜多方市の荒川産業グループは十一月一日から、市内などで循環型地域サービス「たすかりマルシェ」を展開する。市民から洋服などの不要品を集めて灯油券と交換し、集まった品々を市内などで開く市場（マルシェ）で販売する。

サービスの仕組みは 集まった品に補修など【図】の通り。市民が必要ない場合は就労継続支援B型事業所を運営しているグループ内のNPO法人くるりんこに作業を依頼し、障害者の雇用を生み出す。地元の高校に不要品の布で動物用の洋服制作を依頼し、プラ

ンド化を目指すことも想定している。品々を販売するイベント市場「たすかりマルシェ」に生徒たちも参加してもらい、店舗経営などを学ぶ一助とする。集まった不要品の海外への輸出も計画している。

ロゴマーク採用で表彰 会津大短期大学部生2人



ロゴマークが採用され、荒川社長から表彰を受けた宮原さん（中央）と八巻さん（右）

荒川産業グループは事業を通じて廃棄物処理に悩む市民の声を聞いてきた。インターネットで物を売買する仕組みが増える中、地域内で多様な人が交わる仕組みを考えたい。同グループの荒川健吉代表（荒川産業社長）は「多くの人が関わり合いながら、地域を盛り上げる活動にしたい」と話している。

荒川産業グループは循環型地域サービス「たすかりマルシェ」のロゴマークを会津若松市の会津大短期大学の学生に依頼した。九日、デザインに決まった学生への表彰式が同学部で行われた。産業情報学科デザイン情報コースの学生から十一点の応募があり、最優秀賞に宮原亜由香さん、八巻さんに表彰状などを手渡した。

全国商議所女性会連合会